

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

済に言及しています。ここでは終末時の復活が主題になっているのですが、「一人も失わないで」と述べることで、誰をも取りこぼさないという理想が掲げられています。40節は改めて神の意志が終末時の復活と永遠の命であることに触れ、さらに「子を見て信じる」と述べることによって、初期キリスト教に多大な影響を及ぼしたグノーシス主義、とりわけその教えと深く関係するとされる「仮現論」(docetism)と一線を画すヨハネ教会の主張を語っています(Iヨハネ1:1-4参照)。仮現論とは、霊的存在であるキリストが実際に肉体の姿でこの世に現れて十字架の苦難と死を経験したわけではなく、仮の姿として幻影のように見えただけだとする教理です(docetismは「～に思える」を意味する *δοκέω* ドケオーに遡源)。

今日はこの聖書から38節に焦点を当ててみたいと思います。38節は一見するとイエスが神の操り人形のように自分の意志を持たない自我の失われた存在のように勘違いしてしまうかもしれません。しかし、これは心理学で言うマニピュレーション(心理的操作・心理的支配)とは異なります。日本で宗教が忌避される理由としてあげられるマインドコントロール—洗脳という言い方は不適切—の不正確な理解にも気をつける必要がありますが、イエスはここで自らの使命として自らの役割を選び取っているということです。他者から無理に与えられたり、あるいは気づかないうちに操作されたりしているのではなく、自分の「使命と役割」として神の意志をイエスは自らで選び取っているということです。そして、それがイエスからキリスト教に「受け継がれるもの」として二千年にわたって継承されてきたのです。翻って酪農学園大学はどうでしょうか。キリスト教、聖書、三愛精神、健土健民が自分たちの「使命と役割」として「受け継がれるもの」になっていると言えるでしょうか。改めて自省しつつ実践しましょう。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝】2026年7月14日(火)10時40分

次回の礼拝は韓国のCCC(Campus Crusade for Christ)の学生たちを迎えて特別プログラムで行います。また、礼拝後には黒澤記念講堂2階の集会室でCCCのみなさんとの交流・茶話会を行います。日韓/韓日の大学の国際交流と文化交流の貴重な機会でもあります。ぜひ、ご出席ください。

【前回の大学礼拝】2026年6月30日(火)

学生：248名 教職員ほか：8名 合計：256名

【大学礼拝週報】2026年度 第12号(前学期第12号)

2026年7月7日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司式 小林昭博(宗教主任・循環農学類教授)
奏楽 佐藤理恵(日本基督教団野幌教会オルガニスト)
讃美指導 相原晴伴(農環境情報学類長・教授)

前奏 いと愛しまつるイエスよ(ツイップ作曲)
讃美歌 第二編182番(丘のうえに十字架たつ)
聖書 ヨハネによる福音書6章38-40節
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「使命と役割—受け継がれるもの」小林昭博(宗教主任)
祈り
讃美歌 第二編171番(大波のように)
報告
後奏 主をほめたたえよ(アーベル作曲)

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章38-40節(新共同訳)

「³⁸わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。³⁹わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。⁴⁰わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

【奨励】「使命と役割—受け継がれるもの」

ヨハネ6:38-40はイエスの使命を語っています。これはイエスの自己理解であると同時に、ヨハネ教会のイエス理解でもあり、さらにはヨハネ教会がこの世界に存在する意味を自省する自己認識の言葉でもあります。38節はイエスがこの世に来た理由が自分のしたいことをするためではなく、神の意志を行うためであるというイエスの自己理解が示されています。39-40節は神の意志が人間の救済であるということを示し、イエスはそのためにこそ日夜懸命に活動していると述べています。39節は宗教的救